

# 公開シンポジウム

逐次通訳あり

お気軽にご参加ください

# チェルノブイリと福島からの調査から 森林の放射能汚染対策を考える Envisage the Future of Fukushima Forests

# 6/5 TUE

## 東京大学農学部一条ホール

### 13時～ 16時半

YAYOI auditorium, the University of Tokyo 事前申込不要

福島第一原子力発電所の事故から7年が経過しました。放出された放射性物質により汚染された地域の多くが森林に覆われています。事故後に行われた観測調査により森林内での放射性セシウムの動きが少しずつ明らかになってきました。今回のシンポジウムでは、チェルノブイリ事故の際に森林の放射性セシウム研究に精力的に取り組まれた

Thiry博士とShaw教授を招き、さらにはチェルノブイリ事故が欧州の生態系に与えた影響の研究に長く従事し、国際原子力機関の報告書にも多数関わってきたHoward教授に参加いただき、ヨーロッパの当時の状況や最新の知見、そして福島の観測を踏まえながら、今後の森林内の放射性セシウムと汚染された森林の管理について考えます。

13:00-13:10 開会の辞 丹下 健  
(東京大学大学院農学生命科学研究科 研究科長)

13:00-13:10 Opening Remarks by Prof. Takeshi TANGE  
(Dean of the Graduate School of Agricultural and Life Sciences, the University of Tokyo)

13:10-14:10  
森林における放射性セシウム循環を解き明かし、  
モデル化する：チェルノブイリから福島へ  
イヴ チリー 博士  
(フランス放射性廃棄物管理公社)

13:10-14:10  
Deciphering and modeling the radiocesium  
cycle in forest: from Chernobyl to Fukushima  
Dr. Yves Thiry  
(National Radioactive Waste Management  
Agency, France)

14:10-14:20 休憩：ポスター展示

14:10-14:20 Break

14:20-15:20  
森林を回復できるのか？ 汚染された森林の長期的  
見通しと、考えられる今後の管理  
ジョージ ショー 教授  
(英国ノッティンガム大学)

14:20-15:20  
Can we fix the forest? Long-term prospects and  
possible management options for contaminated  
forests Prof. George Shaw  
(University of Nottingham, U.K.)

15:20-15:40 休憩：ポスター展示

15:20-15:40 Break

15:40-16:20  
パネルディスカッション  
パネリスト：イヴ チリー 博士、ジョージ ショー 教授、  
ブレンダ・ハワード 教授  
(英国生態学水文学研究所 & ノッティンガム大学)  
三浦 覚 (森林総合研究所)  
モデレーター：橋本 昌司 (東京大学・森林総合研究所)

15:40-16:20 Panel discussion  
panelists: Dr. Thiry, Prof. Shaw,  
Prof. Brenda Howard,  
(The Centre for Ecology & Hydrology,  
University of Nottingham, U.K.)  
& Dr. Satoru MIURA  
(Forestry and Forest Products Research Institute)  
moderator: Assoc.Prof. Shoji HASHIMOTO  
(the University of Tokyo / Forestry and Forest Products Research Institute)

16:20-16:30 閉会の辞 坪山 良夫  
(森林総合研究所 企画部長)

16:20-16:30 Closing Remarks by Dr. Yoshio Tsuboyama  
(Forestry and Forest Products Research Institute)

この国際シンポジウムは東京大学「農学140基金」の支援を受けており、この基金には以下の企業より多額のご寄付をいただいております。  
・アサヒグループホールディングス株式会社・朝日工業株式会社・キッコマン株式会社  
・キュービー株式会社・キリンビール株式会社・株式会社ぐるなび・サントリーホールディングス株式会社・すてきなグループ株式会社・日本製紙株式会社・農林中央金庫・株式会社丸菱バイオエッジ・ヤンマー株式会社・株式会社ロッテ

This International Symposium is partly supported by the 140th Founding Anniversary Fund of the Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo. Following companies have generously donated a significant amount to the Fund:  
・Asahi Group Holdings, Ltd.・ASAHI INDUSTRIES CO., LTD・Kikkoman Corporation  
・Kewpie Corporation・Kirin Company Limited・Gurunavi, Inc.  
・Suntory Holdings Limited・Nice Holdings, Inc.・Nippon Paper Industries, Co., Ltd.  
・The Norinchukin Bank・B.E. Marubishi Co., Ltd.・Yanmar Co., Ltd・Lotte Co., Ltd.

一部はJSPS科研費 16H04945の助成を受けたものです。This symposium is supported by JSPS KAKENHI Grand 16H04945.



information

アグリコクーン 産学官民連携室  
(農学部3号館1階105A)内線28882

TEL:03-5841-8882  
e-mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp  
http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp